

午後 試験

問 1

問 1 では、営業店支援システムを題材にして、VoIP、音声自動応答システムの構成について出題した。選択率は低かったが、全体としての正答率は高かった。

設問 1(1)では、穴埋め問題を出題したが、正答率は高かった。しかし、(2)の音声劣化要因については、“外部からの雑音”、“音声の遅延”、“帯域不足”など、対象システムに対する理解が不十分な解答も見られた。

設問 4 の h と i は、呼量を算出してから、呼損率表を用いて必要回線数を求める標準的な適用例の出題で、正答率は高かった。しかし、IVR について同時処理の必要な能力を求める問い方に変えた j は、正答率が低かった。理論の本質的な理解を心がけてほしい。

設問 5(2)は、正答率が低かった。RTP パケットの構成を基に、与えられた条件から、未知の量を順次計算していけば、正解を導ける問題であった。基礎知識を実際の問題に応用する力を、身に付けてほしい。

設問 6 では、SIP の呼制御セッションと音声ストリームの RTP セッションが、どのような関係をもって動作するかについて出題した。(1)のメカニズムについては正答率が高かったが、切断する理由については正答率が低かった。背後にあるメカニズムの本質をよく理解した上で、システムの動作を分析することが大切である。

問 2

問 2 では、ネットワークの再構築を題材にして、スイッチで構成されたネットワークと、SAN の特徴や移行の留意事項について出題した。

設問 1 では、穴埋め問題を出題したが、正答率は低かった。受験者の SAN についての基礎知識は不十分ではないかと推察された。

設問 2 の VRRP やスパニングツリープロトコルなどのネットワークの冗長化については、正答率が高く、受験者の習熟度は高いと判断できた。

設問 3(2)の MAC アドレスフィルタリングについては、正答率が低かった。VLAN についてはよく理解されていたが、複数の技術を用いて一つの機能を実現することにも習熟し、応用力を身に付けてほしい。

設問 5 では、新システムへの移行について出題した。経験に基づく考察が必要な(3)は、正答率が低く、誤って“平日に作業を行う場合の影響”について解答した受験者が多かった。また、(4)は、本文に挙げた四つの基本方針に該当する事項や、システム拡張の観点とは関係のない保守性向上などについて記述した誤った解答が多かった。設問で問われていることを正確に把握するよう心がけてほしい。